

予報

1 大会山域について

鈴鹿山脈は主稜線が三重県と滋賀県の県境を南北に走り、標高1000m前後の山々が連なる。三重県側は伊勢湾に向けて一気に標高を下げる。山頂までの距離は短いが深い谷や急崖のような険しい地形が多く、滑落や落石の危険がある。一方滋賀県側はなだらかに傾斜し、谷が複雑に入り組んでいる。地形が読みにくく、麓まで距離があるため、遭難の危険がある。鈴鹿山脈全体を見ると南北で地質が異なり、北部は御池岳や藤原岳といった石灰岩質の山で、南部は今回の登山競技コースでも使う、御在所岳をはじめとした花崗岩質の山である。こういった地質の違いが地形にも表れており、花崗岩質の地形では風化しやすく、露岩やガレ場、ザレ場が随所に見られる。特に御在所岳周辺では不思議な姿かたちの奇岩が多くみられ、その中でも有名な地蔵岩は御在所岳の中腹にあり、2つの岩の間に四角形の岩が挟まるように乗っていて、絶対に落ちないことで有名な岩である。今回のコースでは石門(いしもん)という、門のような奇岩を見ることができる。また、鈴鹿山脈は三重県側と滋賀県側で気候もやや異なり、冬季は滋賀県側は日本海側からの北風の影響で積雪が多く、植生も影響を受けている。本大会コースは鈴鹿山脈中央に位置する国見岳、御在所岳を登るコースと、国見岳から派生したヤシオ尾根の延長に位置するハライドに登り、水源地のブナ清水を經由するコースである。

(1) 根の平峠 (803m)

根の平峠は鈴鹿山脈中部の主稜線上、釈迦ヶ岳と御在所岳の間にある峠の一つである。朝明溪谷から遡上し、滋賀県側へ下ると愛知川へとつながる。昔は千草街道として人や物資の往来があった。千草街道ではその昔(1570年)、上洛帰途の織田信長が鉄砲で撃たれるも玉は体をかすめ命に別状はなかったという事件も起きた歴史的にも有名な逸話が残る街道である。

(2) 国見岳 (1175.2m)

御在所岳よりすぐ北に位置する、鈴鹿山脈の主稜線上にある山である。鈴鹿山脈の主稜線ではシロヤシオやアセビの群生が見られ、以前一帯を覆っていたササは随分減ってしまった。ここ国見岳も稜線上は高木は少なく、こういったツツジ科の灌木林が多く見られる。山頂付近は花崗岩の露岩が多く、眺望が優れている。山頂を過ぎてすぐの所で奇岩の石門が登山道右側に見られる。また、山頂を過ぎて少しの所でガレ場を通るが、そこから御在所岳の藤内壁が一望できる。多くの観光客で賑わう御在所岳と違い、静かな山歩きができる山である。

(3) 国見峠 (1080m)

鈴鹿山脈の主稜線上の、国見岳と御在所岳の間に位置する峠で、御在所岳の裏道登山道が通る。多くの登山客が行き交う、重要な分岐である。国見峠を三重県側に下ると湯の山温泉へ、滋賀県側へ下ると愛知川源流へとつながる。

(4) ございしょ自然学校前広場

御在所山上公園内にある施設。2006年に閉園した日本カモシカセンターの跡地が利用されている。

(5) 御在所岳 (一等三角点 1209.4m 御在所山)

鈴鹿山脈を代表する名峰である。山域の多くは自然林で、春から初夏にはイワカガミやアカヤシオ、シロヤシオ、シャクナゲが咲き、登山客に人気である。天然記念物のカモシカは御在所岳のシンボルにもなっており、運が良ければ出会える。登山ルートは主に5つあり、岩場を通る登り応えのあるルートが多いため、登山初心者には注意が必要である。本大会では国見峠から裏道登山道を経て山頂へと至る。山頂付近は山上公園として整備されており、冬季はスキー場が営業している。標高の割に積雪も多く、夏と冬では姿が一変する。三重県側から山頂付近までロープウェイが開通しており、登山客だけでなく一般の観光客も多く訪れる人気の観光地となっている。山域には奇岩が多くみられるように、花崗岩が風化してできた地形が絶景を形作っている。特に藤内壁はクライミングのゲレンデとして有名で、休日は多くのクライマーが登る姿が国見岳から見られる。

(6) 武平峠 (877m)

御在所岳と鎌ヶ岳の鞍部に位置する峠で、三重県と滋賀県を結ぶ国道477号線、鈴鹿スカイラインが通っている。御在所岳への最短の登山口でもある。

(7) ハライド (908m)

朝明溪谷から御在所側に位置するハライドは国見岳から派生するヤシオ尾根の延長に位置するピークである。

(8) 腰越峠 (878.8m)

ハライドの直下、国見岳との間に位置する鞍部である。周辺は深い溪谷となっており、ハライドから急降下するように下っていくため注意が必要である。峠越えの道は廃道となっている。

(9) ブナ清水 (946m)

国見岳から伊勢湾側に伸びたヤシオ尾根の北側の谷にある、ブナの大木に覆われた水源地である。岩の隙間から湧き出した水は年中枯れることなく、登山者を癒す。一帯は谷筋が入り組んでおり、登山道を外れると道迷いの危険がある。踏み跡はしっかりしているのでルートファインディングをしっかりとしたい。

2 コース案内

大会2日目 御在所岳コース

<コース>

朝明茶屋キャンプ場 (S1) — 根の平峠 — ヤシオ尾根分岐 (CP1) — 御在所岳山上公園ございしよ自然学校前広場 (CP2) — 武平峠駐車場 (CP3) — 御在所ロープウェイ乗り場 (G1) バス輸送 湯の山温泉グリーンホテル

幕営地である朝明茶屋キャンプ場（S1）を舗装道に出てから出発である。一般道なので自動車に注意し一列で広がらずに歩いて欲しい。川沿いにはタニウツギやウリハダカエデが見られる。橋を渡って少し歩くと左手に根の平方面への看板が表れて、根の平分岐を左折し川を渡る歩行者用の橋を通過して進む。この時川を渡る歩行者用の橋が二つあるが、一つ目は通過して看板のある橋が根の平峠方面の道である。伊勢谷小屋を左手に通過すると登山道に入り、再び林道に出るが、川沿いの広い登山道から谷を遡上する登山道へと変わっていく。河原を渡渉する際は道が不明瞭であるので、岩に描かれた赤いペンキの道標を見落とさずに進む。何度か渡渉した後、少し荒れた谷沿いの登山道を登っていくとブナ清水への分岐を過ぎてすぐに根の平峠へ至る。

根の平峠を左折し、県境稜線上の登山道を進むと、道は雨に削られ、う回路がいくつも枝分かれして行く。歩きやすい道を慎重に選びながら、ルートを大きく外さないように進んで欲しい。県境稜線上には高山植物のイワカガミが群生し、コアジサイやシャクナゲなども時折見られる。しばらく進むと大きな岩場に出るが、ここは右に回り込んで進む。その後、ヤシオ尾根分岐（CP1）の三叉路に出るが、ここを直進し国見岳への登りとなる。途中、青岳を通りなだらかな斜面を登るが、この辺りは一面アカヤシオやシロヤシオの灌木林に覆われ、国見岳周辺の奇岩の姿もちらほら見られる。登り切ると国見岳山頂の看板が出てくるが、山頂手前で桃岩という奇岩へのルートが右に分岐するので間違えないように。山頂を過ぎて下ってすぐの鞍部の右手に石門という奇岩が姿を現すので、立ち寄っても良い。石門を過ぎるとザレ場が表れる。滑らないように下っていくと、ここにもナマズ岩という奇岩が見られ、眼前には御在所岳が姿を現す。ここから見られる藤内壁は肉眼でもクライマーの姿が確認できる。ここから急なザレ場の下りが続くので滑らないように注意して下る。国見峠へ着くと平場もあり、ここで一息ついて御在所岳へ登る。国見峠を滋賀県側に10mほど進むと左に御在所岳の山頂へと続く直登の登山道があるが、こちらは使わず国見峠を直進していくと、沢を渡ってザレた登山道を登り、舗装された遊歩道に出る。遊歩道を右に進んでいくとリフトをくぐってございしょ自然学校前広場（CP2）へ進む。CP2にはトイレもあり、必要な場合は使ってもらいたい。ございしょ自然学校とトイレの間の道を歩いていくとリフトに沿って道が続き、やがて斜面に山頂への登山道が現れるので登っていく。冬期はスキー場となる広い斜面に出て、登っていくと舗装された御在所岳山頂（一等三角点 1209.4m）に着く。御在所岳山頂より西に2分程の位置にある望湖台（ぼうこだい）が国土地理院による御在所岳の標高1212mの基準となっているが、ここには立ち寄らず、長者池方面の階段を下り、すぐに左手に分かれる階段を降りるとアスファルト道に出る。ここを右に進み、突き当りの登山道を下山する。武平峠方面への下山は斜度がきつくザレた道や岩場が多いため、十分に注意して歩く。やせた尾根上をしばらく下降していくと、武平峠に到着する。武平峠を左折し、鈴鹿スカイラインへ降りていくとトンネル手前になるので、三重県方面に進み、武平峠駐車場（CP3）へ行く。トイレのある駐車場奥から再び登山道を通して御在所ロープウェイ湯の山温泉駅のゴールへ向かう。登山道はスカイラインに沿っているが、道幅が狭く崖際や荒れた沢の渡渉もあり、最後まで気を抜かず歩いて欲しい。しばらく歩くと左手から表道が合流し、右に下山していく。しばらく谷沿いの道が続き、一ノ谷山荘から降りてくる道と合流する三叉路に出るので、ここは右折し県道577号に出る。このまま県道を下ると、左手に三滝川、右手に旅館が立ち並び、いざない橋を渡っていくと両側が旅館街と

なる。次に現れるすいめい橋は渡らずに手前を左に曲がり、道なりに進むとゴールである御在所ロープウェイ湯の山温泉駅（G）へと到着する。ここでしばらく迎いのバスを待ちながら休憩して欲しい。

大会3日目 ハライド・ブナ清水コース

朝明茶屋キャンプ場（S2） —— ハライド（CP4） —— ブナ清水（CP5）—— 根の平峠直下分岐 —— 朝明茶屋キャンプ場（G2）

湯の山温泉グリーンホテルからバスで再び朝明茶屋キャンプ場（S2）へ戻り、朝明ヒュッテ横の道路を進むとハライドへの登山口に着く。登山道に入るとアカガシやアカマツの林の急な斜面をつづら折りに登っていく。倒木や道の荒れにより、元々の登山道にう回路がいくつか分かれているが、尾根に沿って登るルートを外さないように注意したい。尾根が合流する所から徐々に視界が開けて、景色も良くなる。大きな岩場を右手に、注意しながら進むと樹木の樹高も低くなり、アセビやアカヤシオ、シロヤシオの灌木林に覆われる。尾根伝いにハライド（908m）（CP4）へと至る。ここから御在所岳方面は深い谷が切れ込んでおり、これから進む腰越峠との高度差が感じられる。腰越峠へはハライドから西側のザレ場を下りていく道を注意深く進む。落石に注意し、適度な距離を保って下りたい。急な斜面を岩伝いに下りて、腰越峠からは再び急な登りとなる。谷が入り組んでおり、登山道を見失わないようにしっかりルートファインディングして欲しい。しばらくアカガシなどの森に覆われた谷の入り組んだ地形を横切る道を歩くと、尾根道に出る。ここからはブナ清水分岐まで尾根沿いのなだらかな登山道を歩く。看板のあるブナ清水への分岐を右に曲がり、尾根をいくつも乗り越えながら下っていくが、途中、尾根上で鋭角に右に曲がる場所がある。枯れ枝で止めてあるが、間違えて踏み跡がある尾根上に進まないようにして欲しい。それ以降も尾根から谷へ、谷から尾根へと入り組んだ地形を横断する登山道であるため、ここでも登山道を見失わないようにしっかりルートファインディングして欲しい。テープなど目印をしっかりと確認する。尾根と谷を繰り返し越えていくと看板が現れて、左に進んで谷を下って行くとブナ清水（946m）（CP5）へ到着である。ブナの原生林に覆われ、静かな谷間で岩の間から湧き出る清水に疲れを癒されて欲しい。ここから沢伝いに下山して根の平峠のすぐ下の分岐を右に曲がり下山していく。昨日のコースを逆走するコースであるが、道が荒れていたり渡渉でルートを見失うこともあるので注意する。沢伝いに進むと舗装道に出て、右に曲がって舗装道と並行する登山道を進んでいく。伊勢谷小屋の脇を通り、橋を渡って舗装道を右に進み、橋を渡れば朝明茶屋キャンプ場（CP5）へと戻る。